

## 2014 年度 UCRC 研究員プロジェクト活動実績報告書

ふりがな 氏 名	松井広志／上原健太郎
(プロジェクト・テーマ名) 現代社会における「趣味」と「仕事」に関する共同研究 ―模型製作者と居酒屋経営者を事例に―	
(研究活動実績) <p>本プロジェクトの目的は、趣味と仕事の関係に注目した調査によって、現代社会における文化や労働の意味を再考することであった。</p> <p>松井は、東京都で模型の製作代行や完成品販売を行う人たちに対する調査を実施した。具体的には、2014 年 11 月にインタビュー調査および、関係資料の閲覧・複写を行った。そこでの成果の一部は、博士学位申請論文『〈メディアとしてのモノ〉の文化社会学―日本社会における「模型」の形成と変容を中心に―』（審査中）に活用された。</p> <p>上原は、沖縄県で居酒屋を経営する若者集団 Y に対して調査を実施した。具体的には、2014 年 7 月・9 月、2015 年 1 月に参与観察・インタビュー調査を実施し、特に、イベント開催という経営実践に着目した。その成果の一部は、論文「ネットワークの資源化と重層化」（『教育社会学研究』第 95 集、2014 年 11 月発刊）として掲載されている。また、居酒屋経営の手段であったはずのイベント開催が徐々に目的化していくその過程（仕事の趣味化）に接近できたという点に、本調査実施の意義があったと考える。</p> <p>現在はそれぞれの調査による知見が各自によって出されているため、今後の課題として、来年度以降にはそれらをつなげたアウトプットにつなげたいと考えている。</p>	